ニジェール情勢（報道とりまとめ）

（平成２８年９月）

主な出来事

【内政・治安】

●９月２日、ボコ・ハラム（ＢＨ)が南東部ディッファ州のトゥムールを襲撃し、住民５名を殺害し、２名を負傷させた。

●９月７日、ニジェール正義復権運動（Mouvement pour la justice et la rehabilitation du Niger（MJRN））と名乗る武装集団が、ニジェール国内で攻撃を行うと予告した。

●９月１０日、武装勢力が西部アヨルー近くのＵＮＨＣＲのマリ難民キャンプを襲撃し、少なくとも民間人２名が殺害され、複数の負傷者が出た。

●９月１２日、ディッファ州のトゥムール近郊で発生したＢＨの待ち伏せ攻撃により、治安部隊の隊員５名が殺害され、６名が負傷した。

●９月１６日、ニジェール軍は、チャド軍と１２日の週にディッファ州で実施した掃討作戦により、ＢＨの戦闘員３８名を殺害し、武器・弾薬を大量に押収したと発表した。

●９月１８日、ハマ・アマドゥ元国民議会議長に近い野党関係者７名が収監先のサイ刑務所から釈放された。

●９月２８日、ディッファ州の非常事態宣言の延長が閣議決定された。

【外交・経済協力】

●９月６日、イスフ大統領は、アギラ・サレー・リビア議会議長の表敬を受けた。

●９月１９日、第７１回国連総会出席のためニューヨークを訪問中のイスフ大統領は、難民及び移民に関する国連サミットに出席した。

●９月２３日、イスフ大統領はニューヨークでチャド湖周辺の人道危機に関するハイレベル会合に出席した。

●９月２５日、イスフ大統領はニューヨークでバン国連事務総長と会談した。

【経済・社会】

●９月２０日、保健大臣は、８月末以降、タウア州において、リフト・バレー熱に５２名が感染し、２１名が死亡したと発表した。

**１．内政・治安**

●９月２日、ボコ・ハラム（ＢＨ)がディッファ州のトゥムール（Toumour、ディッファ市の北西７５ｋｍ）を襲撃し、住民５名を殺害し、２名を負傷させた。ＢＨは、複数の民家に放火し、コマドゥグ・ヨベ川を渡ってナイジェリア方面に逃走した。（AFP、ロイター）

●９月７日、ＡＦＰは、ニジェール正義復権運動（Mouvement pour la justice et la rehabilitation du Niger（MJRN））と名乗る武装集団が、少数民族であるトゥブ族のコミュニティを守るために、ニジェール国内で攻撃を行うと予告したと報じた。MJRNは、油田がもたらした環境汚染、放牧地の劣化、生活水準の低下等を非難し、トゥブ族の基本的な権利を獲得するために、武装闘争に訴える用意があることを国内・国際世論に訴えるとの声明をＡＦＰアビジャン支局に送付した。ソーシャルネットワーク上に公表されたMJRNのビデオには、全地形対応型の自動車の列を背景にロケット・ランチャーを含む武器で武装したメンバーが写っている。（ＡＦＰ）

●９月８日、ディッファ州のバルア（Baroua）近郊でパトロール中の治安部隊の車両がＢＨが設置したと思われる即製爆発装置（ＩＥＤ）を踏み、隊員２名が負傷した。（ＡＦＰ）

●９月１０日、武装勢力が西部アヨルー（Ayorou）近くのＵＮＨＣＲのマリ難民キャンプを襲撃し、少なくとも民間人２名が殺害され、複数の負傷者が出た。民間人は襲撃者と兵士の十字砲火を浴びて犠牲になっており、襲撃者が民間人を狙っていた様子はなかった。（ＡＦＰ及びＡＰ）

●９月１２日、ディッファ州のトゥムール（Toumour）近郊で発生したＢＨの待ち伏せ攻撃により、治安部隊の隊員５名が殺害され、６名が負傷した。（ＡＦＰ）

●９月１６日、ニジェール軍は、チャド軍と１２日の週にディッファ州で実施した掃討作戦により、ＢＨの戦闘員３８名を殺害し、武器・弾薬を大量に押収したと発表した。（ＡＦＰ）

●９月１８日、ハマ・アマドゥ元国民議会議長に近い野党関係者７名が収監先のサイ刑務所から釈放された。７名は、同元国民議会議長が昨年１１月１４日に滞在先のパリから帰国した際に治安部隊と衝突し、騒乱罪の容疑で逮捕され、今年７月１２日に１２か月の刑を言い渡されていた。（Jeune Afrique）

●９月２３日、ブリジ・ラフィニ首相はアガデズ州インガルで、牧畜民の祭典であるキュール・サレの開幕を宣言した。インガルは今年の雨期に大雨による洪水被害を受けており、同首相は、政府が５千万ＣＦＡフラン（約１０００万円）を被害対策に当てたと述べた。（Le Sahel）

●９月２８日、ディッファ州の非常事態宣言の延長が閣議決定された。（ニジェール政府発表）

●９月３０日、ニジェール軍は、７月以降、ディッファ州で展開したＢＨ掃討作戦により、兵士１４名、ＢＨ構成員１２３名が死亡したと発表した。（ＡＦＰ）

**２．外交・経済協力**

●９月２日、イスフ大統領は、カチュア（Ｋｈａｔｕａ）インド政府特別代表の表敬を受けた。両者は、公営住宅、砂糖生産、ソーラー・エネルギー、教育、人材育成、廃棄物処理等の分野の協力について議論するととともに、両国のビジネス交流や難民支援にも言及した。（大統領府発表）

●９月５日、イスフ大統領は、スィディ・ウルド・アフリカ経済開発アラブ銀行（ＢＡＤＥＡ）総裁の表敬を受けた。同総裁は、同銀行が融資するカンダジ計画の現場視察の報告をするとともに、ニジェール政府のルネッサンス計画２にも貢献する考えを明らかにした。（大統領府発表）

●９月６日、イスフ大統領は、アギラ・サレー・リビア議会議長の表敬を受けた。同議長は、イスフ大統領の招待を受けて、アブドゥッラー・アルタ－二首相、ムーニ・アッサール経済大臣を伴いニジェールを訪問した。両者は、リビアの政治情勢及び治安情勢について議論した。（大統領府発表）

●９月１５日、イスフ大統領は、エスキュール在ニジェール仏大使の表敬を受けた。同大使は、明年１月にバマコで開催されるアフリカ・フランス・サミットの招待状を手渡すと共に、２週間後のＭＥＤＥＦ（仏経団連）のニジェール訪問を公表した。また、両者は、二国間協力関係について議論した。（大統領府発表）

●９月１９日、第７１回国連総会出席のためニューヨークを訪問中のイスフ大統領は、難民及び移民に関する国連サミットに出席し、発言したほか、アフリカ連合平和安全保障理事会の会議に出席した。（大統領府発表）

●９月２２日、カネ計画大臣は、スィディ・ウルドBADEA総裁とともに、ティラベリ州、タウア州、マラディ州及びドッソ州の水力発電のF/S調査のためにBADEAがニジェール政府に５０万米ドルを供与する協定に署名した。（Le Sahel）

●９月２２日、イスフ大統領は、ニューヨークでミレニアム・チャレンジ・コーポレーションの対ニジェール支援に関する合意署名を祝う式典に出席した。（大統領府発表）

●９月２３日、イスフ大統領はニューヨークでチャド湖周辺の人道危機に関するハイレベル会合に出席し、ブハリ・ナイジェリア大統領、デビ・イトゥノ・チャド大統領等と会談した。（大統領府発表）

●９月２５日、イスフ大統領はニューヨークでバン国連事務総長と会談した。同事務総長は、ニジェールの民主主義強化への国連の支援継続を表明すると共に、多国籍軍によるBH対策を賞賛し、また、ニジェールのMINUSMAに対する貢献に感謝を述べた。（国連事務総長発表）

●９月２９日、インターネット上の報道機関Ｔｈｅ Interceptは、米軍がアガデズにドローン用の滑走路を建設していると報じた。国防省報道官もＡＦＰにその事実を認め、建設費は５千万米ドルであると述べた。（ＡＦＰ）

●９月２９日、ヤクブ外務協力アフリカ統合在外ニジェール人大臣は、外務省で開催したシー・フー在ニジェール中国大使の送別会で、同大使に功労勲章コマンドールを授けた。同大臣は、中国による支援として、ニアメ市内の第一及び第二立体交差、ニジェール川の第三の橋の事前調査開始、ザンデール及びマラディの高圧電線の敷設、光ファイバーの敷設開始、ニアメ市での教室や井戸の建設、ニアメ市の総合病院の建設、医療専門家の派遣、行政官の研修等を列挙した。（Le Sahel）

●９月３０日、イスフ大統領は、離任するシー在ニジェール中国大使の表敬を受けた。（Le Sahel）

**３．経済・社会**

●９月８日、ニジェールはＵＥＭＯＡ圏内での３５０億CFAフラン（約７０億円）の５年債を西アフリカ諸国中央銀行（BCEAO）を通じて発行した。（Financial Afrik）

●９月１２日、ニアメ特別州のアルー環境局長は、ニアメの薪の年間消費量の４分の１が犠牲祭の祝日に消費されたと発表し、薪の消費による森林破壊に警笛を鳴らした。（AFP）

●９月２０日、ニアメ市で路肩を占拠している中古車販売業者の立ち退きが開始された。これは同市が展開している無許可営業者の立ち退き作業の一環。（RFI）

●９月２０日、保健大臣は、８月末以降、タウア州において、リフト・バレー熱に５２名が感染し、２１名が死亡したと発表した。（仏フィガロ紙）

（了）